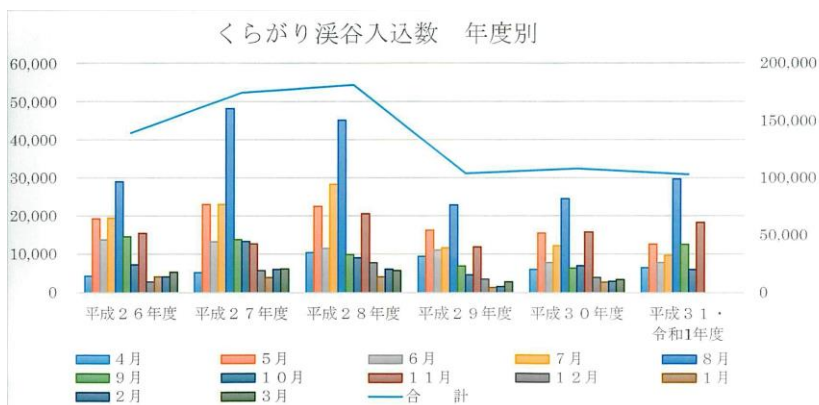


【くらがり活性化部会】

くらがり活性化実行委員会（委員長 加山 茂さん）

〇くらがり溪谷入込数の比較

くらがり溪谷は、昭和35年名鉄ハイキングコース人気投票No.1となり、写生大会、かかしまつりなどのイベントも行われ大変賑わっていました。昭和54年入山者250万人目の方には「ナショナルカラーテレビ」が贈呈され、平成5年450万人目には「テーブルセット」が贈られました。そして知名度の高い観光地であったくらがり溪谷も、社会環境の変化や溪谷を訪れる方の交通手段・利用方法が変わり始め、協賛企業・団体の減少につながっていきました。



現在の利用者は、登山、バーベキュー、テント、ニジマスの釣り・つかみどり等です。このくらがり溪谷を活性化させ、楽しめる場所、学べる場所、自然を満喫できる場所として、伝え・広める活動が必要かと思えます。くらがり溪谷現在の入込数の推移のグラフを載せておきます。（参考：くらがり溪谷30年の歩み）

【歴史文化部会】

歴史文化探訪委員会（委員長 清水 カさん）

〇第2回 雨山城址を探訪しました

4月19日(日)に第2回目の雨山城跡調査を実施しました。参加者は、岡崎市文化財保護審議会委員の奥田敏治氏、西尾市役所教育委員会文化財課長の石川浩治氏（愛知中世城郭研究会）及び同研究会に所属する現役大学3年の山崎氏並びに当委員会メンバーです。石川氏の用意した「雨山場付近の地籍図」を基に現場を確認すると、雨山町東アチワ地内の3軒が雨山城の屋敷跡ではないかと判明、「城山の入り」という地名の山頂を目指していくと、標高350mの地点に「雨山砦」と思われる地点に到着。同所から東南西方向に見通しができ、周辺の状況を把握するには打って付けの場所であることが確認されました。また登山中に石川氏より、「人工物の石垣跡も認められる」との指摘を受け、益々興味が湧いてきました。更に、石川氏によると、頂上北西部の窪地に「のろし」を上げるに絶好の場所があると示され調査を進めることとしました。また、城跡の看板設置、遊歩道の整備及び広報チラシの作成が必要であることの指導を受け、準備計画を進めてまいります。

【教育環境部会】

子どもの居場所づくり委員会（委員長 鈴木久義さん）

〇学区の子どもたちにいま私たちができること

新型コロナウイルスの感染拡大により、子どもたちの生活や

教育環境が激変しています。当委員会に、住民から様々な声が寄せられたことから「子どもたちの変化に気づき」、「子どもたちのために何ができるのか」もう一度確認することにしました。また、保育園と小学校の存続持続発展を目指す取り組みを考えています。小学校は、児童数の減少により完全複式学級となり、4名の教職員が去り1名の教職員が補充されました。この状況を地域としてもよく考え、支援・協力していかなければなりません。いろいろアイディアは出ています。宮崎小学校においては、「特任校制度」導入による児童の誘致も含めて、複式解消になる児童の確保と地域に根ざした小学校教育のアピールです。保育園においては、保育に欠ける子どものみでなく、子ども園に転換することにより、学区外への通園児を戻すことができれば幸いです。課題が多くありますが、一つひとつ解決していければと思います。

【生活改善部会】

にぎわいづくり委員会（委員長 平木教男さん）

〇委員会名が変わりました

これまでの「JA 宮崎支店検討委員会」を発展させた形で、「にぎわいづくり委員会」が新たに創設されました。この委員会は『地域に賑わいを生み出すような小さな拠点を作っていくこと』を目的にしています。5/25に第1回の委員会を開き、目的や今後のタイムスケジュール、近隣の先進事例の視察案などを検討しました。少子高齢化や地域経済の縮小という課題に直面しているのは、「みやざき」だけではありません。過疎化に悩んでいる全国の中山間地で、閉校になった学校や閉じられたJA支店・郵便局を活用して生活サービス機能を集約することで、あらたな賑わいを創出していこうという動きが出てきています。

全国の先進事例に学び、これから住民の皆さんに具体的な提案をしていきます。

【健康推進部会】

健康ウォーキング委員会（委員長 加藤勝彦さん）

〇今年度新しく発足した委員会です。

宮崎まちづくり協議会では、宮崎学区の活性化を目指し、現在5つの委員会が活動しています。新たに自然に恵まれる宮崎学区で健康で幸せ溢れる生活を送るための「健康づくり」の一環で、ウォーキングコースを設定し、綺麗な空気を吸い美しい山々や木々を眺めながら自分のペースでゆっくり歩くことを考えています。岡崎市では、全国で広まっている「クアオルト健康ウォーキング」による健康療法に注目しています。昨年11月に「太陽生命クアオルト健康ウォーキングアワード」で優秀賞に選ばれました。この受賞には、ウォーキングイベントの開催や市職員のスニーカー通勤の取り組みが評価されました。中心市街地の回遊コースと、額田地区の豊かな自然を活用した2コースの設定と、歩き方を指導するガイドの養成を検討しているようです。宮崎学区が大切に守ってきた自然を楽しむコースを作り、生活習慣病予防や健康寿命の延伸に寄与できたらいいですね。この事業に興味のある方、ガイドをやってみたい方、是非一緒に活動してみませんか。